

佐賀県研究成果情報（作成 2024 年 3 月）

[情報名] 中山間地における水稲品種「にじのきらめき」の収穫適期

[要約] 中山間地における「にじのきらめき」の収穫適期は、出穂後の積算気温 1,000～1,150℃（出穂後日数 43～50 日頃）、黄化粃割合は 85～95%である。

[キーワード] にじのきらめき、収穫適期、外観品質

[担当] 佐賀県農業試験研究センター・三瀬分場・山間農業研究担当

[代表連絡先] 電話 0952-56-2040・メールアドレス nougyoushikensenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 水田作

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

水稲品種「にじのきらめき」は、2021 年に県認定品種に採用され、中山間地で作付けが広がっているが、収穫適期が明らかとなっていない。

そこで、中山間地における本品種の品質を確保するため、収穫適期を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 収量増加に関わる屑米率の減少と玄米千粒重の上昇は、出穂後積算気温が約 900℃までは著しいが、その後は緩慢となる（図 1）。
2. 玄米外観品質が優れる時期は、出穂後積算気温が約 1,000～1,150℃の期間であり、その時の黄化粃割合が 85～95%で、出穂後日数は 43～50 日である（図 2、図 3、図 4）。
3. 高温であった 2022・2023 年では、出穂後日数は短くなり、出穂後積算気温 1,000～1,150℃での出穂後日数は 40～47 日となった（図 4）。

[成果の活用面・留意点]

1. 出穂後積算気温・黄化粃割合を基本とし、出穂後日数は目安とする。高温の年では出穂後日数は短くなり、収穫時期が早まるので、留意する。（図 4）。
2. 穂軸の枯れ・粃の水分では収穫適期の判断は難しいので（データ略）、黄化粃の割合を見て判断する。

[その他]

研究課題名：「中山間地における水稲品種「にじのきらめき」の安定栽培技術の確立」

予算区分：県単

研究期間：2021～2023 年度

研究担当者：松尾一宏、條島真紀子、上瀧孝幸

[具体的データ]

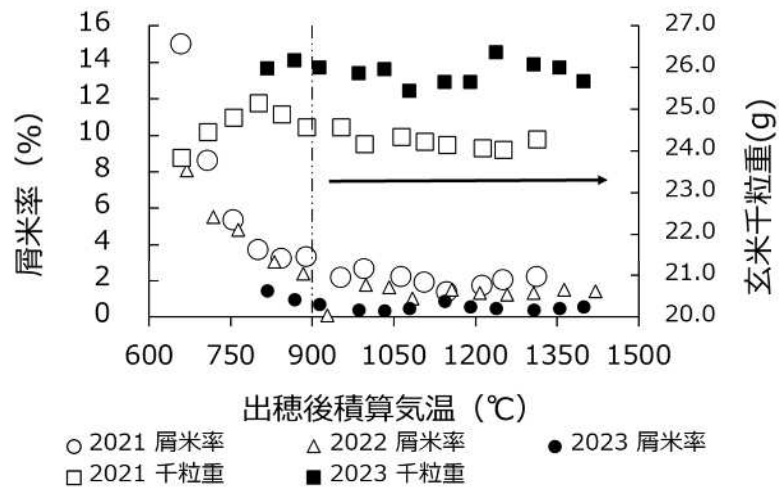


図1 出穂後積算気温と屑米率・玄米千粒重

注) 玄米千粒重は、篩目 1.8mm 篩上、水分 15.0%換算。屑米率は篩目 1.8mm 篩下の重量の割合で示した。

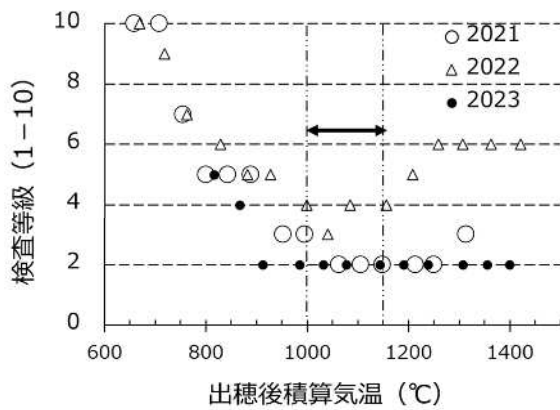


図2 出穂後積算気温と検査等級

注) 検査等級は1(1等上)~9(3等下)、
10(規格外)の10段階評価。

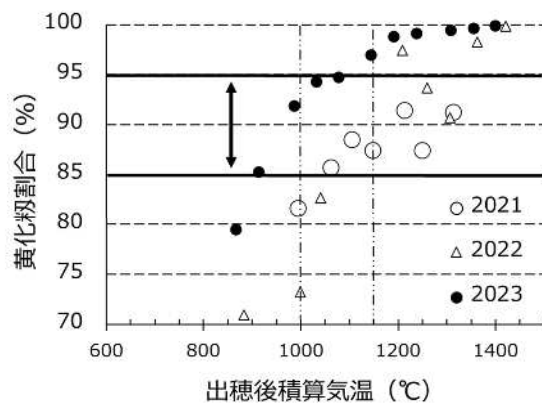


図3 出穂後積算気温と黄化粉割合

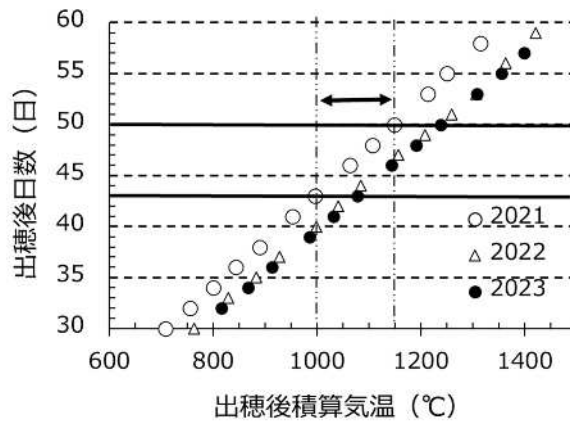


図4 出穂後積算気温と出穂後日数

注) 2022・2023年の出穂後積算気温は、平年より高温であり、2021年は平年並みであった。